

今月の
いいね!

イワシだけど、イワシじゃない!?

—カタボシイワシ—



カタボシイワシ

【名前】

カタボシイワシ（ニシン目ニシン科）

【すむ場所】

九州南岸、琉球列島などに分布。近年では駿河湾、相模湾、さらには千葉県外房などでも見られる。

【大きさ】

全長 30 cmほどになる。

【当館で見られる場所】

駿河湾の生きもの

【特ちょう】

うすく平たい体で、えらぶたに黒点をもつ。沿岸で大きな群れを作って生活する。

【担当学芸員から一言】

名前はイワシですが、実はサツパの仲間。当館周辺では見かけない魚でしたが、ここ数年、定置網にたくさん入ります。ただ、あまり食用に向かないため安価で取引されます。でも、水槽を泳ぐ姿は美しく、一度ご覧いただきたい魚のひとつです。(K.Y)

Q&A

疑問にお答えします：エサ パート 2

Q 水族館のエサはどうやって保管しているの？

以前ご紹介（海のはくぶつかん 265号）しましたが、水族館では、アジやイワシなど様々なエサを使用しています。当館のエサの量は、イルカなどの海獣類を飼育している他の水族館と比べると少ないといえます。それでも週に4日間、1回に10kg以上のエサを魚たちに与えます。これだけのエサをいつでも使用できるようにするには、大きな冷凍庫や冷蔵庫が必要です。これらは水族館にとって重要な設備で、生物の飼育には欠かせません。当館にもそれぞれ1基ずつ設置され、常に大量のエサが保管されています。(Y.I)



博物館の大きな冷凍庫

海洋水槽 初潜り！



重いタンクを背負って潜水



水中での清掃作業

私は当館に勤めてから約 20 年間、科学館部門を担当していましたが、一昨年には飼育業務にも携わっています。ですから今もまだ新人！？日々、新しい業務に挑戦中です。今回、初めて潜水作業を行うことになりました。もちろん潜水業務に必要な免許は持っていますが、ダイビングは学生時代以来。そのため、まずは博物館裏の海でリフレッシュ講習を受けました。

講習当日は雨で、海岸には釣り人などもおらず、ほぼ貸し切り状態。ダイビングには最適な状況でしたが、私はというと……。当然すぐに上手くは潜れません。やっと慣れてきた後半、大きなマダイが現れて驚いていると、あっという間に講習は終了。海中での緊張と陸上とは違う疲労ため、しばらく体がフラフラでした。

そして、いよいよ潜水業務当日。潜る海洋水槽には、大きなサメのシロワニやギンガメアジの大群、ウツボなど様々な魚が泳いでいます。一方で私はというと、清掃作業をする水深約6mの底まで潜るので一苦労。緊張でこわばった体と浮力のためにうまく潜れず、水面でジタバタするばかりでした。息を精一杯吐き出して、足で水をけて潜りますが、すぐにボンベの空気を吸って、また体が浮き上がってしまいます。最終的には、そんな私を見かねた先輩の手助けもあって、無事潜水することができました。その後、体は安定していましたが、サメやエイに驚きながらの清掃は思うように進まず、初めての潜水作業は終了となりました。今後は安定した潜水作業が常にできるように、日々精進したいと思います！（S.T）

季節のクラゲ ーハナガサクラゲー

7月になり、各地で海開きの声が聞こえ始めました。海水浴のシーズンには、注意しなければならない海洋生物の一つとして、クラゲの話をよく耳にします。そのため、夏のイメージが強いクラゲですが、種類ごとに出現時期が違います。春先に多いカミクラゲ、夏に港で見かけるアンドンクラゲなど、季節のクラゲがいるわけです。今回は、春から夏にかけて見られる「ハナガサクラゲ」が久しぶりに展示に加わりましたので、ご紹介したいと思います。

ハナガサクラゲは、主に本州中部から九州にかけて生息し、傘の直径が 10cm ほどになるクラゲです。名前の通り花笠（はながさ）のような美しい姿をしており、学名にも「formosa」というラテン語で「美しい」を意味する言葉がつけられています。ただ、その見た目に反して毒性は強く、近海で見られるクラゲの中では最強クラスです。実際に手を刺された経験を持つ職員によると、頭まで電気が走ったようなショックと刺された後のげげしい痛みが忘れられないとのこと。この毒を用いて、小魚などをとらえて丸のみにしてしまいます。また多くのクラゲは、常に水中を漂って生活するのですが、本種は夜行性で、昼間は海底付近の海藻などにくっつき、動かずにいるという面白い生態を持っています。

クラゲの中には、その季節にしか見られない限定のクラゲもいますので、ぜひお見逃しなく！（Y.I）



触手をのぼすハナガサクラゲ

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。予めご了承ください。